

学校の教育目標	
<p>人間尊重の精神を踏まえ、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かなたくましい児童を目指し、以下の目標を設定する。</p> <p>◎ 考える子 ○ 協力する子 ○ 元気な子</p>	
学力に関する目指す児童像	
<p>主体的に学び、考えを深める児童（柔軟なものの見方、考え方をもち、学び続ける児童）</p>	
授業改善推進プランの全体像	
<p>1 本校での言葉の定義</p> <p>(1) 「主体的に学ぶ」児童 ⇒ 学ぶことに興味・関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげようとする児童</p> <p>(2) 「考えを深める」児童 ⇒ 主体的・対話的な学びの中で、課題設定、対話、再考、話し合い、自己決定、振り返りの学習過程において言語を通して正確に理解したり適切に表現したりしながら自己の考えを広げ深める児童</p> <p>2 授業研究の内容</p> <p>児童の、自分の思いだけでなく友達の考えを大切にできる態度、論理的に思考する力、言語を通じた豊かなコミュニケーション能力を伸ばすため、「ねらいと振り返りが一体となった授業づくりの学習過程」を取り入れた授業改善を各教科で行っていく。また、「発信力」を身に付けるために、児童に発信力の基礎となる「話す力」や「聞く力」、「書く力」を育成する。各教科での対話や協働学習において発信力の場面をより多く設定し、成功体験を積み上げていく。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">めあて／課題</div>	<p>既習事項を生かしながら児童の意欲を引き出し、主体的な活動を促すような課題の設定をする。</p>
<div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">見通し・自力解決</div>	<p>課題に対する予想や見通しをもつ時間を設定する。また、解決の方法のヒントを与え、全員に自分の考えをもたせられるようにする。</p>
<div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">学び合い</div>	<p>明確な目的をもって机間指導を行い、学びの深まりを意図的に取り上げる等、学び合いをコーディネートする。また、児童同士による対話、学習リーダーを生かした小集団による学び等、指導の目的に応じた学習形態を工夫し、互いに学びを深められるようにする。</p>
<div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">まとめ</div>	<p>まとめは児童が自分の言葉で書けるように工夫する。教師は、キーワードを子供から出させて板書し、全員が自分で書けるように支援する。また、めあて／課題とまとめは、文の書き出しを同一にする等正対していることが分かるよう板書を工夫する。</p>
<div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">振り返り</div>	<p>本時のねらいに応じて、視点は児童に選ばせたり、教師が指定したりする。また、振り返りの内容をもとに、次時への意欲付けを行う。</p>

令和7年度 授業改善推進プラン（各教科）

I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
伝え合う力や、考えたり想像したりする力と、言葉がもつよさに気付き、使おうとする態度		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝えたい思いは強く、いろいろなことに興味をもっている。 ・語彙数には個人差が大きく、発言したり伝えたりする場合、言葉の受け手に理解が難しい場面があり、考えなどの共有に時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元での学習を基に、発言は語尾までしっかり話すことを繰り返し、定着させる。 ・読書活動を推進し、たくさんの言葉や使い方に触れ、語彙を豊かにする。 ・自分の話したいことを伝える機会を授業や朝の会などで確保し、語彙の活用を図る。
低	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを話すことに意欲的な児童が多い。 ・話し合いの場面では、ある程度互いの話に関心をもてるが、相手の発言を受けて話をつなぐことに課題がある。 ・語彙量や主述関係、文章構造や内容を読み取る力は、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動を推進し、本の紹介や説明、報告などの活動を行い、身近なことを表す語彙量を増やす。 ・一対一の対話や少人数で尋ねたり応答したりする話し合い活動を取り入れ、考えの形成を図る。 ・文章を読んで感じたことや分かったことや学習の振り返りを伝え合うことで、自分の考えを広げる。 ・発達段階に応じた話型を指導する。
中	<ul style="list-style-type: none"> ・考えをまとめ、文章で表現したり、グループ活動等で伝え合ったりすることに意欲的に取り組む。 ・事柄の順序など情報同士の関連について理解するのに時間がかかる児童がいる。 ・目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書いたり、表し方を工夫したりすることに苦手意識がある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書を積極的に使って調べることで、語彙を豊かにする。 ・教材文に対して、自分の考えを児童同士で伝え合う活動を設定することで、明確に筋道を立てて物事を考えたり、相手の話を聞いて理解したりしようとする思考力を高めたりする。 ・日記、詩、俳句、紹介文、感想文、新聞、学習の振り返りなど、多様な書く活動を取り入れ、言葉を使って表現する楽しさを味わえるようにする。 ・発達段階に応じた話型を指導する。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもち、相手に伝えることはできているが、意図や目的に応じて質問することや、考えを広げたりまとめたりすることには課題がある。 ・語彙が少ないため、自分の考えを豊かに伝えることに難しさを感じる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に考えを伝える必要がある活動を設定し、ふさわしい話型を指導していく。 ・読書活動を推進し、豊かな言語感覚を身に付けさせる。また、教材文に出てきた意味の分からない単語は自ら調べるように促す。 ・考えを交流する場面では、相手の意見に対して質問する機会を意図的に設ける。また、話し合いのあとには、自分の考えを再考してノートに自分の言葉でまとめる時間を十分取るようにする。

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
社会的な見方・考え方を働かせ、問題解決型学習サイクル（つかむ→調べる→まとめる）を積み重ねる活動を通して、自分とのつながりを感じようとする態度		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組んでいる。地図や資料を読み取ることが苦手。資料から読み取ったことと関連させて考えたり、考えを表現したりする力が十分でない。 ・社会的事象に対する興味、関心は高いが、実際に体験できない社会的事象については、知識として身に付いていても、自分事として捉えられていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心を生かして自ら調べたり、発見したりしながら学習を進める機会を増やす。観察や見学、聞き取りなどの具体的な体験を伴う学習を多く取り入れる。 ・自然災害から人々を守る活動などの社会的事象と自分たちの生活を関連付けた課題を設定する。 ・教科書以外の資料、動画などを提示し、多様な視点で調べられるようにする。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・大陸や海洋の名前など、基礎知識の個人差が大きい。まとめる活動で、自分とのつながりを見いだすことが難しい児童が多い。 ・基礎的な知識や資料を読み取る力は概ね身に付いているが、社会的事象に対する根拠や理由を明確に表現する力や自分の生活と結び付けて考える力が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館やタブレットPCの活用、地図帳や地球儀、統計や年表などの基礎的資料を通して、情報を整理してまとめる学習場面を適切に設置する。 ・社会的事象に関連することについて、教科書や資料集、タブレットPCで調べてまとめる活動を取り入れる。また、自分の生活とのつながりという視点を意識した課題設定や学習の振り返りをする。

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えたことを、説明したり、伝え合ったりして振り返り、よりよく問題を解決しようとする態度		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の学校探検で見つけた数字を書いたり、数字を使って遊びを考えたり、図書館の本が仲間同士で分類されていることに気付いたりすることはできる。 ・見たい本が置いてある場所を言葉で示したりと説明したり、友達と伝え合ったりすることが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活のなかで見つけた課題を、算数「なかまづくりとかず」や「なんばんめ」の学習等につなげ、児童の生活の中から学びの種を見つけて学習に結び付けることで、主体的な学習につなげていく。 ・「なかまづくりとかず」では、数のまとまりに着目し、1つの数を他の2つの数の和や差として捉え言葉や半具体物などを用いて表現できるようにする。「なんばんめ」では、数を用いて順序を表すことのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養っていく。

低	<ul style="list-style-type: none"> ・数に対する興味をもち、たし算、ひき算などの計算に意欲的に取り組む。一方、数の概念と実生活との結び付きに個人差が大きい。 ・たし算やひき算の計算に意欲的に取り組み、反復練習を行うことで確実に答えを求めることができる児童が多い。一方、数の仕組みを絵や図等で表現することに苦手意識をもっている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動を取り入れ、実生活との結び付きを確かにする。 ・算数で扱う言葉の語彙を増やし、理解を確実にできるように、読み取りや文作りを習慣化する。 ・話し合いで複数の考えにふれることで、自分の考えを表現する方法のレパートリーを増やす。
中	<ul style="list-style-type: none"> ・区学力調査では、教科の正答率が区の平均正答率より3年生1ポイント、4年生4ポイント上回っている。 ・課題解決において、より多くの方法を考えようとする児童がいる一方、考えがもてない児童がいるなど個人差が大きい。 ・正答を早く求めることに大きな意義を感じている児童は、立式の理由や作図方法の説明に苦手意識をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の時間を保障し、自分の考えをもって対話や再考、話し合いを行い、情報交換する時間を設定する。考えがなかなかもてない児童にはヒントを与えたり、考えがもてるように導いていったりする必要がある。 ・話し合いで複数の考えにふれることで、よりよい解決方法を選択していく活動を多く取り入れる。正答が求められれば良いという考えではなく、正答にたどり着くまでの学習過程を大事に指導していく。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・区学力調査では、教科の正答率が区の平均正答率より5年生10ポイント、6年生7ポイント上回っている。 ・課題解決において、より多くの方法を考えようとする児童がいる一方、考えがもてない児童がいるなど個人差が大きい。 ・正答を早く求めることに大きな意義を感じている児童は、立式の理由や作図方法の説明に苦手意識をもっている。 ・学習意欲はあるがどうやったらいいかわからず戸惑う児童が複数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じて、既習事項の確認を行う。その後、自力解決の時間を保障し、自分の考えをもって対話や再考、話し合いを行い、情報交換する時間を設定する。考えがなかなかもてない児童にはヒントを与えたり、考えがもてるよう導いていったりする必要がある。 ・話し合いで複数の考えにふれることで、よりよい解決方法を再構築していく活動を多く取り入れる。正答が求められれば良いという考えではなく、正答にたどり着くまでの学習過程を大事に指導していく。 ・学習能力が高くない児童にはスモールステップで簡単な学習から取り組んだり、ゲーム的要素を取り入れた学習を行ったりして基礎基本の学習につなげていく。

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
意欲的に自然の事物・現象に関わろうとする態度や、他者と関わりながら問題解決しようとする態度、学んだことを自然の事物・現象や日常生活に当てはめてみようとする態度。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	<ul style="list-style-type: none"> ・区の学力調査では、概ね区平均を上回っている。 ・予想や問題を自分たちで作り出すことや、差異点や共通点を自らの言葉でまとめることが身に付いていない児童が多い。 ・単元により学習の定着に差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然との関わりの中から気付いた差異点や共通点から学習問題を設定し、予想を根拠とともに自分の言葉で書かせる。 ・予想や気付いたことは、より深く、確かな学力になるよう児童同士で話し合う活動を多く取り入れる。 ・単元の終わりには、ドリルパークの利用により、学力の定着を図る。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・区の学力調査では、概ね区平均を上回っているが、事象の説明や実験からの説明等での誤答が多かった。 ・根拠に基づいた予想や、考察を自分の言葉でまとめられずに、積極的な意見交換ができない児童が多い。 ・単元により学習の定着に差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で児童にとって身近で興味を持続させるような事象提示を工夫し、常に自分の考えの下、実験したり表現したりできるようにする。 ・個人で考えた予想や考察は、多面的な視点から考えていけるよう児童同士で話し合わせる。 ・単元の終わりにはドリルパークの利用により、学力の定着を図る。

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を自分の生活に生かそうとする態度		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生活経験の差が大きく、共通で体験したり活動したりする学習を行う際に配慮が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で見付けた疑問を解決したり、児童の思いや願いを実現したりすることで学ぶことへの意欲を高める。 ・具体的な活動や体験を通して、見付けたり、遊んだり、不思議だなと感じたり、やってみようと思ったりしたことを学習の意欲へと繋げる。
低	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで学習しようとする意欲があり、対象を自分との関わりで捉えられるようになってきた。 ・自分自身や自分の生活について考えを深め、豊かに表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し自然事象と関わったり、試行錯誤して何度も活動をすることで考えや思いを深めていく。 ・目的意識を明らかにし、学習から学んだことを考え、伝え合う場を設定していく。

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむこと。表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に歌ったり、鍵盤ハーモニカの学習に取り組んだりしている児童が多い。しかし、鍵盤を押すことと息を吹き込むことのタイミングを合わせることや指使い、手の使い方が難しく、鍵盤ハーモニカの学習に消極的な児童も一部いる。 ・鑑賞や音楽づくりにおいては、積極的に感じたことを表現する児童が多いが、「何も思い付かない」と言って、消極的な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱の際は、導入部分で意欲を高めるような写真を見せるなどして楽しく歌えるようにする。指使いや手の使い方を理解できるように提示教材を工夫する。 ・児童が関心のある曲に合わせてタンギング練習をする等、楽器の苦手意識を改善する。 ・鑑賞や音楽づくりにおいては、アイデアが豊富な児童の考えを全体で共有し、それを参考にさせることでまずは活動に参加できるようにする。
中	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように歌いたいか思いや意図をもって積極的に歌っている児童が多い。 ・器楽（リコーダー）においては得意な児童と苦手な児童の差がある。 ・苦手な児童はリコーダーのタンギングが音の高さに合わせて適切にできなかつたり、運指が理解できていなかたりする。 ・3年生においてはリコーダーの穴をきちんとふさぐことができていない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの運指を隣同士ペアで確認し合うことで児童同士の活動を増やし、一人一人が確実に理解できるようにする。 ・音の高さに合わせてのタンギングを苦手とする児童には一小節のみ等、スモールステップで個別指導を行う。 ・穴をきちんとふさげていない児童には、演奏を中断して、まずは隙間がないようにふさぎ、きちんとふさげていることを確認してから音を出すように指導する。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりにどのように歌いたいか思いや意図をもって積極的に歌っている児童が多い。しかし、二部合唱においてはアルトパートにつられてしまったり、アルトパートの音が取れなかつたりとアルトパートを歌うことに消極的な児童もいる。 ・器楽（リコーダー）においては得意な児童と苦手な児童の差が激しい。苦手な児童はリコーダーのタンギングが音の高さに合わせて適切にできなかつたり、運指が理解できていなかたりする。ま 	<ul style="list-style-type: none"> ・二部合唱については最初は階名で、それができたら次は歌詞で等、段階を追っての指導を行う。アルトについては、アルトならではのよさを見付けさせる指導をする。 ・リコーダーの運指を隣同士ペアで確認し合うことで児童同士の活動を増やし、一人一人が確実に理解できるようにする。音の高さに合わせてのタンギングを苦手とする児童にはまずは一小節のみ等、スモールステップで個別指導を行う。 ・鑑賞においては、鑑賞ワークシートに書く内容のルールを決めたり、指揮をふらせてその指揮の動きからの一人一人の考えを見取ったりして、書けない

た、6年生の鑑賞においては自分の考えをワークシートに書ける児童と書けない児童の差が激しい。書けたとしても的外れなことを書いている児童もいる。	児童への支援を行う。
------------------------------------------------------------------------	------------

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
既習事項を活かし、材料や場、友人との関わりによって、自分の見方・考え方を広げたり、深めたりしようとする態度		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に図工の学習に取り組んでいる児童が多い。 ・友人と関わり合いながら、自分らしく表わそうとしている。表現に合わせて、基本的な用具や道具を適切に扱えるようになっていない児童もいる。 	<p>実演や図画を用いて、視覚的に基礎的・基本的な用具や道具、材料の適切な扱い方を指導し、定着させる。</p>
中	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組み、自分の思いに合わせて、工夫して表現しようとしている。 ・その一方で作品を早く完成させることに夢中になり、深めるまでに至らない児童が多い。 	<p>友人の活動や作品を自然に見合うことができる環境をつくり、学び合いによる相互学習を確立する。既習学習を基に、新しい道具や用具の学習を活かして、思いに合わせて、より自分らしく表現できるようにする。</p>
高	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組む、既習学習を基に、様々なものや人と関わりながら、自分なりに表現しようとしている。 ・針金や糸のこぎりなどの道具の使い方が得意な児童とそうでない児童の差がある。アイディアスケッチの段階では表したいことをかけても、技能が伴わずにそのアイディアを諦めてしまう児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCを使い、活動の経過を記録したり、振り返ったりすることにより、見通しをもち、作品と向き合えるようにする。また、友人と共有することで、自分の見方・考え方を広げたり、深めたりする。 ・道具の使い方は既習済であっても、最初に使い方を確認することや机間指導を通して、困っている児童に個別に支援するなど早期に対応できるようにする。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
自分の生活を見つめ、問題を見いだして課題を設定し、工夫して解決したり、自分が考えたことを分かりやすく表現したりする力		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な知識や技能の習得には、意欲的に取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活経験から課題を見付けるような学習計画を立て、児童同士が対話をしながら工夫して課題を解決できるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活経験に差があるだけでなく、自分の生活の中から問題を見だし、自分事として捉えることが難しい。 	
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
児童が自ら課題を見だし、自主的・自発的な学習を行い、真に追求したい課題を主体的・対話的に課題解決していく児童。体育科の見方・考え方を働かせ、深い学びを実現させ、三つの資質・能力をバランスよく育む児童。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きな児童が多く、楽しみながら活動している。 ・体の使い方や体力には個人差がある。学び方を学んでいるのが現状である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・領域ごとの運動遊びで様々な運動体験を多く積み重ねていく。遊びながら、児童が主体的に楽しく運動しながら運動の基礎となる動きを意図的に取り入れ、体力の素地を育てていく。 ・児童の思いや願いから課題を設定し、楽しみながら課題を解決していく。
中	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性に応じた楽しさや喜びに触れることはできている。 ・自己の課題を見だして学習に取り組んでいるが自己調整する力は個人差があり、自己に合っていない課題に取り組むことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題の解決に向けて、自己調整する力を育てるとともに、児童同士で対話的に学ぶことができる学び方を学校で統一していく。 ・対話的な学びを実現することで、伝え合ったり、教え合ったりしていき、深い学びへと繋げていく。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見だし、自己調整しながら主体的に学習に取り組むことができている。 ・課題解決の際に対話的に課題を解決しようとする力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の際には、グループ、トリオ、ペア等、学習形態を工夫し、協働して課題解決に取り組めるようにする。 ・技能面では、ICTを効果的に活用して、見るポイントを具体的に伝えたり、ポイントを意図的に提示したりすることで児童同士での解決を促していく。

10 英語活動・外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国語科等での育成したい資質・能力		
外国語による聞くこと・話すことなどの言語活動を通して、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲・関心が高く、すすんで発音したり、やりとりしたりする児童が多い。 ・外国語に馴染みがなく、外国語によるコミュニケーションに自信がもてない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌やチャンツの活動を通して、声に出して発音する場を増やす。 ・教員が支援し、外国語でのやり取りを繰り返すことにより、自信をもって話せるようにする。

中	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンツやアクティビティーなどの活動には積極的に参加する児童が多い。 ・活動後の振り返りには、学習内容が反映されていないため、言語の定着に課題があると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人、ペア、全体など様々な形態で繰り返し発話する機会を多くとることで、積極的なコミュニケーションを促す。 ・本時の活動に入る前に、既習の単語や例文を復習することで、言語の定着を図る。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションにおいて必要な知識は身に付けているが、自分の考えや気持ちなどを積極的に伝え合おうとする姿勢の個人差は大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画教材の活用により、話す内容や話し方を視覚的・聴覚的に訴え、話すことへの不安を取り除く。 ・ペアやグループなどで声に出して発音する場を増やし自信をもてるようにする。

11 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
日常生活と関連付け、児童が自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりしようとする態度		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値を自分事として捉える事の個人差が大きい。 ・自分の考えを伝えることには比較的意欲的だが、話し合いを通して自らを見つめ直し、考えを深めることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入を工夫し、児童一人一人がねらいとする価値を自分事として捉えられるようにする。 ・教材や児童の生活体験を生かし、一人一人が意欲的で主体的に取り組むことができる表現活動や話し合い活動を設定する。 ・自分の生活を振り返り、見つめ直す活動を工夫する。
中	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情の読み取りに終始するのではなく、自分が登場人物だったらと考えることができている。 ・自分の考えや意見を発表する際に、自信をもつことができず、相手に伝えることを苦手とする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と異なる意見と向き合い議論することを通して、自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりする。 ・自身の考えや意見に自信をもつことができていない児童へタブレットPCを活用した交流を通して、少しずつ自信をもたせる指導を行っていく。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値について自分事として問題意識をもてるようになり、道徳的価値を実現することのよさや難しさを確かめることができるようになってきた。 ・自分の生活の中から問題を見いだし、今後の自己の生き方について深く考えるまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活との関連付けを図る工夫をする。 ・話し合いを通して、自分の考えを再考する時間や自己のこれまでの生活や行動を見つめ直す時間を十分に確保する。

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
日常生活や社会に目を向け、疑問や関心に基づき自ら課題を見付け、解決するために必要な情報を整理分析することで問題を解決し、更なる課題を見付けようとする態度		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	<ul style="list-style-type: none"> ・探求的な学習の一つ一つを身に付けている。 ・情報の収集やまとめ方においては、多様な方法があり、ICTなども使って学習をすすめている。 ・ICTを使うことが目的になっていることがあり改善の余地がある。 ・単元を終えた後のゴールイメージを教員も児童も共有できていない。そのため、積極的に社会に参画しようとする態度の育成まで至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の探求を繰り返し行う。その際、課題にあった情報を得る方法、まとめる方法をたくさん紹介したり、児童同士で学び合ったりして経験を増やす。 ・課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめの学習過程をたどりながら、さらにそこから新たな課題を見付け、さらなる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返す。 ・さらなる探求活動に進められるように単元を終えた後のゴールイメージを教師、児童が共有し、常に戻ることができるように明らかにさせておく。
高	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめまではできるが、そこで満足してしまい、そこから新たな課題を見いだすことが難しい。 ・一連の探求的な学習過程はたどるが、さらなる探求学習に進まない。 ・単元を終えた後のゴールイメージを教員も児童も共有できていない。そのため、積極的に社会に参画しようとする態度の育成まで至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめたことを表現する際、互いに発表を聞き合う中で疑問に思ったことを出し合う時間を設け、新たな課題を見いだすきっかけとしていく。 ・課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめの学習過程をたどりながら、さらにそこから新たな課題を見付け、さらなる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返す。 ・さらなる探求活動に進められるように単元を終えた後のゴールイメージを教師、児童が共有し、常に戻ることができるように明らかにさせておく。

I 3 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
各活動・学校行事における様々な集団活動の中で自主的・実践的に社会参画することを通して、人間関係をよりよく形成し、自己のあり方や生き方を考え実現する力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・友達やクラスのみみんなのために活動したり、考えを出し合ったりすることに意欲的に取り組んでいる。	・話合いの仕方を学年で共有し、学級会による意見の交流を基に行事に取り組むことで考えを実現する経験を増やす。
中	・児童一人一人が学級での生活をよりよくするために考え、意欲を持って係活動に取り組んでいる。	・学級会や話合い活動を積極的に実施し、友達と折り合いをつけながら、一人一人が楽しく豊かになるように考え、係活動や行事に取り組む経験を増やす。
高	・学校をよりよくするためにできることを各委員会で話合い、主体的に取り組んでいる。 ・たてわり班活動やクラブ活動を通して、異学年との関わりを積極的に行っている。	・話合いを通して学校のために自分たちができることを具体的に計画し、実践できるようにする。 ・異学年での活動や行事について、下級生のことも考えながら、自分たちで企画、立案したことを実践する場を増やす。

I 4 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
低	・指導した内容について、すぐに実践しようとするができる。 ・授業や学校生活のルールを十分に理解できていない。	・ソーシャルスキルトレーニングで基本的な学習や生活のルールについて指導し、我慢や衝動を抑えるトレーニングをする。
中	・教師や友達の話を中心して聞き、積極的に質問し反応することができる。 ・自分の考えや気持ちを言葉で表現することが苦手である。	・気持ちを表す言葉や話型について指導し、活用できるようにする。 ・小集団活動の中でトレーニングを行い、自己肯定感を高める。
高	・活動のめあてや取り組み方に対して、自分たちで考え意見を伝えることができる。 ・自己の困り感に対する対処法が分からないことがある。	・振り返りや、自己理解を深める活動を通じて自分の良さや困難さへの対応や回避方法を身に付けさせる。 ・自分の得意なことから、成功体験を積んで、自信を付けさせる。